

♣ 扉 ペトナムの民族楽器④ 青木有理 1
♥ まなぶということ 飯島貞親 2
♠ 詩 マンシヨンの清掃 矢野俊彦 4



特集

その働き方、どうなの？

地方公務員の働き改革と現実 堀田順一郎 6

ワークなの？ライフなの？ 川上達也 12

危機と効率化の先に残る不安 藤林実久 14

お互いさまが成立するって、どんな時 黒井詩織 16

学校現場の現実をかえる糸口 玉澤聡子 19

「異動辞令」という名の紙切れ一枚で
生命まで売らない 小野賢治 22

職場の法律相談 固定残業代 村上 一也 29

第2特集 世界の労働運動にまなぶ
——イギリス・ドイツ 浦田 誠 32

国家と教育 ②5 教育の自主性と教育裁判 中川 律 52

①からまなぶ『賃金論』 ① ジョブ型雇用・ジョブ型賃金：菅原修一 56
誌上学習会『共産党宣言』 ⑦ プロレタリアと共産主義者2 60

- ◆ キャラバンサライ
- ◆ スポーツ時評
- ◆ 世界はいま
- ◆ 経済を知ろう！
- ◆ 数字を疑え
- ◆ 中国観看

48 46 44 42 40 38

- ◆ 働くものと健康
 - ◆ 情報BOX
 - ◆ 北から南から
 - ◆ センターとみなさんをつなぐ
- 68 66 65 50

カット＝野崎安希子

まなぶということ

戒厳令と市民の行動で考えたいこと
飯島 貞親

昨年12月3日深夜、韓国で戒厳令が宣布された。この暴挙が野党や国民の抵抗によってわずか6時間で撤回された。

駆けつけた市民と政治家のすばやい行動が撤回へと導いたとのこと。そのさい、国会に集まった人々に飲み物や食料をふるまって支援した市民の存在は、日本ではほとんど報道されることがなく、権力者に抗う姿は軽視されている。

軍に撃たれるかもしれないという恐怖を感じていた中での行動は、「自分が血と汗と涙をささげない民主主義は本物ではない」と軍事独裁政権下の民主化運動の指導者で後に大統領になった金大中氏が残した言葉は、問題に対する真剣さを強く感じさせる。

このできごとを見て、韓国映画『タクシー運転手』を思い出した人も多いだろう。独裁政権下で政権を批判した弾圧の対象となる命がけの作品で、当時の全斗煥たちによるクーデターや金大中氏の逮捕を発端として、学生や市民を中心としたデモが戒厳軍との銃撃戦ともなう武装闘争へと拡大していった事実が題材となっている。

かつて、日本も戒厳令が発動された1936年に2・26事件が起きている。首相官邸・陸軍省・参謀本部などを占拠し、国家改造を要求するというクーデターだ。これをきっかけに戦争へと日本は突入していった。「あんな苦い歴史はくりかえされることはあるまい」と多くの日本国民はたかをくくっている。

維新の馬場伸幸氏は「韓国で起きることは日本でも起きる」「改憲で緊急事態条項を整備すべきだ」と発言している。緊急事態条項は権力者によって戒厳令を強行することが可能になるのに、認識の甘さにはあきれる。改憲派はこの程度しか憲法のことを知らないのだろうか。

今回の韓国の事件は他人事ではない。現在の日本人は同様の事態に遭遇したときに行動が起これるだろうか。日常生活と政治はつながっていることを自覚し、韓国民の行動力に学んでいく必要性を強く感じる。

(林野関連退職者の会)